

高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20
高知県子ども・福祉政策部障害保健支援課内
高知県精神保健福祉協会
電話：088(823)1111・088(823)9669(直)
FAX：088(823)9260
E-mail：kochi-mhwa@mopera.net
発行人 数井 裕光 編集人 諸隈 陽子

第285号

第62回高知県精神保健福祉大会

「やなせたかし 愛、勇気、希望を求める魂の旅」～みんなが安心して暮らせる社会をめざして～
(令和5年11月15日(水) 高知県立県民文化ホール(グリーン)にて開催)

講演1

「一寸先は光」

～やなせたかしの生き方と作品世界より～



講師

公益財団法人やなせたかし記念
アンパンマンミュージアム振興財団
事務局長(学芸員)
仙波 美由記

2023年はやなせたかし没後10年、やなせたかし記念館・詩とメルヘン絵本館」25周年、絵本「あんばんまん」誕生から50周年という節目の年であり、2025年には、やなせたかし夫妻をモデルにNHKの連続テレビ小説「あんばん」が放送されると発表されたところです。このようなときにやなせたかしの皆さんに知っていただくチャンスをいただきました。

やなせたかしのプロフィール

本名は柳瀬嵩、1919年大正8年に生まれ、2歳下には弟・千尋がおりました。嵩5歳のとき新聞記者であった父清が中国で流行病のため亡くなります。生前清の兄寛に子どもがなく跡取りがないことから、千尋が養子となることが決まっていた。その後母登喜子が再婚し柳瀬家を出たことから、嵩も伯父の家に預けられ、南国市の後免野田小学校へ転

校し、小学校2年から旧制中学卒業までをこの家で過ごすこととなります。

嵩は大学受験のため取った戸籍から父母弟が消えているのを見て、心中の孤独感を「坊ちゃんの兄」という作品に残しています。絵や文章を書くのが得意だったやなせは、旧制中学時代から高知出身のスター漫画家横山隆一氏の影響で漫画家として身を立てたいと考えるようになります。伯父寛は医者でしたが、兄弟ふたりが違う道に進むことを認めました。嵩は東京高等工芸学校（現千葉大学）に進学しますが、卒業間際にこの伯父も亡くなります。そして戦争となり兵役招集され中国の戦地で終戦を迎え日本に帰り、京都帝国大学に進学していた弟千尋が戦死（海軍）したことを知ります。戦後、家族を失った喪失感と、不条理で矛盾に満ちた戦争に強い思いを持ち続けることとなります。

戦後1年間高知新聞社に入社し、ここで後の夫人となる暢と出会います。暢は自立心の強い女性で「私は先に東京に行くから、あとから来て」と上京。高知新聞で記者としてだけでなくコマ漫画、挿絵やカット、雑誌の表紙などを描いていた嵩は、暢を追う形で上京し一旦諦めていた漫画家への道を再び目指すこととなります。

目次

第62回高知県精神保健福祉大会講演(講師:仙波美由記) … 1
第62回高知県精神保健福祉大会講演(講師:池 雅之) …… 3
令和5年度 大規模地震時医療活動訓練について …… 5

令和5年度 高知県精神保健福祉卓球大会の結果について… 6
ご芳志への御礼…………… 6

1953年ようやく独立しフリーの漫画家としてスタートを切りますが、横山隆一氏の「フクちゃん」のような代表作を生み出すことができません。その間にテレビや舞台の仕事を通じて多種多様な人たちと交流します。1961年、やなせたかし作詞いずみたく作曲「手のひらを太陽に」が大ヒット。73年「あんぱまん」を幼児向け雑誌『キンダーおはなしえほん』に発表。同年サンリオより雑誌『詩とメルヘン』を創刊（以後30年編集長を務める）。のちの代表作となるアンパンマンは、やなせが戦争体験から得た「逆転しない正義とは何なのか」という彼の人生の命題を作品へと昇華したものです。

代表作にこめた思い

「手のひらを太陽に」やなせは大切な家族と早くから次々に別れた一方で、自身は、自分が生かされた意味は何かあるはずだ、と考え続けながら天寿を全うしました。生きていることは非常に価値のある素晴らしいことですが、生きていくからには必ず悲しみも伴っている。幼い頃に生みの親と別れ、生きているということは必ずしも楽しいことや嬉しいことだけではないということをよく理解していたやなせだからこそ、書けた詩です。

「アンパンマンのマーチ」この詩は子どもたちに向けて書いた詩ではなくて、自分自身に向けて問う歌詞になっています。生きる意味は何か、やなせにとって生涯問い続けた大きな命題です。何か正義をなすとき、仲間を道連れにするのではなく、自分一人で行う強い覚悟がなければできない、とやなせは言います。

「たたかうアンパンマン像」2011年東日本大震災が発生し、被災地のラジオ局に「アンパンマンのマーチ」をかけてほしいというリクエストが集まりました。90代を迎え第一線を退く覚悟でいたやなせでしたが、その反響を聞き何か役に立てないかと支援活動に乗り出します。子どもたちの夢を守るためにはアンパンマンが先頭に立って力強く一歩前に踏み出さなくてはならない。非常に厳しい顔のアンパンマンが力強く拳を前に突き出しマントを後ろに風と共になびいている翻している姿をデッサンしました。

そんなメッセージを「たたかうアンパンマン」に込めました。この姿は同年に当地アンパンマンミュージアム15周年の記念像にもなりました。

映画「アンパンマン復興三部作」やなせが生前書き上げた復興三部作は没後2014年夏に公開された「それいけ！アンパンマン りんごぼうやとみんなの願い」をもって完結しました。本作に限らずやなせの作品には生きるという言葉がたくさん出てきます。喜びも悲しみも生きているからこそ味わえる。やなせの強い思いであります。

アンパンマンは「自分の顔をあげる」自己犠牲と「顔がなくなる」無名性を併せ持つ特異なキャラクターです。アンパンマンは、選ばれしスーパーマンではなく普通の人間が仲間や家族のために一歩踏み出すことによってなしうる正義、そのヒーロー像を描いています。「本当の正義というものはかっこうのいいものではなく、自分も深く傷つく。捨身、献身の心なくしては正義はおこなえません。」やなせの言葉です。

またアンパンマンとばいきんまんはライバルであるとともに、常に同じ世界に共生している関係にあります。分け与えることで飢えることなく共に一緒に暮らしていける、考え方が異なる相手でも排除するのではなく共に生きていくための道筋はある。平和への思いを後世に語り継がなければなりません。

アンパンマンは逆転しない正義、献身と愛を具現化したキャラクターであり、正義を行う人は我々と同じ弱い人であるというのが前提にあります。正義を行う愛には、勇ましさも含まれていて、その勇氣には優しさが含まれているのです。

やなせたかしの人生観

やなせがまだ代表作に恵まれず苦しんでいたころ先輩漫画家が「人生は一寸先は光」と声をかけてくれました。やなせはこの言葉を信じて何十年も作品を作り続けてきました。やなせの言う「満員電車、降りたら負けよ」とは、ぎゅうぎゅうの満員電車(漫画界)には才能のある人がたくさん乗っており自分のための席は見つからない。しかし、自分の作品、伝えたいメッセージを描き続けてさえいれば、いつか自分

の前にも席が空く。その日まで諦めずに、描き続ける(電車から降りずにいる)ことが大切という意味です。

運・鈍・根の精神。運に恵まれ、あきらめないで鈍重に生き、根気よく物事に対処する姿勢をやなせは「うどんこ」の精神と称しています。最晩年ヒット作品に恵まれたのは運がよかったけれど、半分くらいだから「うん」ではなく「う」。コツコツとやるべきことは100%やったから鈍重の「どん」。根気は半分の根(こ)だけ。全てに100%を求めるのではなく、気楽にしかし気長に努力し続けようという意味です。やなせは相手を笑顔にさせることで、自分も笑顔になることが出来るという考え方を貫いていました。「人生は喜ばせごっこ」やなせの人生哲学です。

遺言から始まった「やなせたかし文化賞」

やなせは自身の若い頃のような作家(地道な活動

をしていてもまだ認められていない、世間に認められる代表作がまだない作家)がその活動をあきらめることのないように支援する賞を作ってほしいと考え遺言を当財団に遺しました。それが生誕100年の2019年「やなせたかし文化賞」第1回目の発表へとつながりました。第1回はtupera tuperaという人気のクリエイティブユニット、第2回はぶるすあるはというNPO団体が大賞を受賞しました。後者は精神疾患を抱える親御さんとその子どもたち、両方を支える活動を地道に続けている団体です。絵本・SNSサイト・アプリ等、ヤングケアラーとなった子どもたちが助けを求めやすいツールを独自で制作し、現代の子どもたちの生活に則した支援を行っています。「やなせたかし文化賞」の多様性、絵本作家や漫画家でなくても大賞に選出されることが第2回で示されたことは、今後の財団の活動にとっても大変意義のあることだったと考えています。

講演2

「アンパンマンの世界からみえる『こころ』について」



講師

高知県公立大学法人
高知工科大学共通教育教室 教授
健康管理センター長
池 雅之

これからお話するのは臨床心理士としての私の内的現実ともいべき内容です。この話を聞かれた皆さんは今一度ご自身で興味のあったことは、更に調べて確認をしていただき、今後アンパンマンの世界を理解する時にこんな見方もあるのかもと、ちょっとした参考にしていただければ幸いです。

こころと心理学の心

古今東西こころをどうとらえるかは様々です。こころと体は一体なのか、心は心で物は物なのか。現

代では世界の人々の大半は「人間を人間らしく振舞わさせる事を可能にしている何か」を想定していて、まさにアンパンマンの話に繋がっていく認識と思われます。かつては宗教や哲学からこころを見つめる立場があり、それが更に進んで、科学としてこころを内観することが始まります。フロイトはこころを意識だけでなく無意識という領域までひろげ、こころの構造を示しました。ユングの集団的無意識は全ての人共通のこころのあり方と捉えられ、万人に普遍する魂に繋がるものであるとも思われます。

アンパンマンをエゴグラムから

フロイトはこころの構造を「意識・前意識・無意識」に、更には「超自我・自我・エス」とそれぞれ3層に分ける提案をしました。エリック・バーンはこのこころの構造にヒントを得て、交流分析を立ち上げました。その弟子ジョーン・ディセイがエゴグラ

ムを考案しています。まず超自我に当たる部分を親のP (parents) に、自我を大人のA (adult) に、本能的なエスを子の要素C (child) として捉えました。さらに親Pを、厳格な父親CP (CriticalParent) と優しい母親NP (NurturingParent) に分ける。子どもCを、自由奔放なFC (FreeChild) と順応するAC (AdaptedChild) に分けています。

本来は個人の心の中のお話ですが、「それいけ！アンパンマン」に登場するメインキャラクター、アンパンマン、ばいきんまん、ドキンちゃんはどうつながるのでしょうか。アンパンマンはばいきんまんをアンパンチしてやっつける厳しい部分CPと、自分の顔を与える優しい部分NPを併せ持っています。それに対してばいきんまんは自由奔放なFCと、意外に従順に応ずるACを併せ持っています。ドキンちゃんの言われるままにホイホイと行動しています。そのドキンちゃんは自身の目的のために上手にばいきんまんにお願いし、目的を達成する冷静な大人の部分Aがあります。

この3者のキャラクターの要素がアンパンマンのストーリーには多く含まれています。厳格なCPであるアンパンマンは責任感が強く理想を持って行動する。やなせたかしさんが乗り移っているようです。さらに思いやりがありやさしく世話好きで受容的であるNPを併せ持っているパーソナリティです。ばいきんまんは感情を隠さず明朗快活、場合によっては創造的で本能的に行動するFreeChild。よくいろんなマシンをつかってあの手この手でアンパンマンをやっつけに来ますね。本能的になっているのがばいきんまんの核になっていますが、同時に他者の顔色を見て遠慮がちに行動する優しい部分もあります。善と悪が共生する、そんな自我のあり方が顕れているような気がします。他方ドキンちゃんは、現実的理性的クールで冷静沈着、ばいきんまんにべったりする訳でもなく、自分の願いをかなえていくAdultの要素を常に求めています。このような作品の見方はいかがでしょうか？

アンパンマンのマーチの歌詞で生きる意味を問う

ているのは、学者E.H.エリクソンの言う自己同一性、アイデンティティを求める姿を表しています。自分自身は何であるか、やなせさんはアンパンマンを通じて訴えようとしていました。また同じ歌詞で、生きる喜びには痛みも伴うとあるのは心的外傷、トラウマの話です。やなせさんの場合お父さんや弟さんを早くに亡くされました。けれど我々にはそれを乗り越えていく力がある。やなせさんは作中アンパンマンを助けるたくさんのキャラクターを登場させます。ジャムおじさん、バタコさん、しょくぱんまん、カレーパンマンたち。アンパンマンひとりが頑張っているのではなく彼らが助けてくれる。みなさんの周りにもそんなヘルパーたるキャラクターがいるのかもしれない。ご自身でどんなキャラクターに興味を湧くのか、じっくり動画を楽しまれるのも一興かもしれません。

やなせたかし記念館（アンパンマンミュージアム）と箱庭

心理的援助の技法として箱庭療法というものがあります。ひとつの箱の中の砂の上に世界を作っていきます。いろんなアイテムやフィギュアをそこに置いて心の中を投影していくことによって心や行動が様々に変化していくという治療方法です。アンパンマンミュージアムは「箱」の形をしていて、中には順路というもの無く階段状のステージを上まで上がったたり、エレベーターで下がったり外側から入っていけたりいろんな風に美術館に入り、参加する、登場することが出来るようになっています。その中でアンパンマンの登場人物やストーリーにふれあうことが出来ます。この空間にたくさんの家族連れが訪れて思い思いに「アンパンマン」の世界を楽しんでいます。自由な空間で遊び家族で創造的な体験をするのは、広い意味での治療的な空間にもなっているようにも思います。そこに訪れた人は自分が「アンパンマン」そのものにも、周りのキャラクターにもなりえます。そのことを先陣としてやなせたかしさんが、美術館をも作品のひとつとして伝えてくれているのかもしれない。

令和5年度 大規模地震時医療活動訓練について

高知県 子ども・福祉政策部 障害保健支援課精神保健福祉担当 主幹 藤田 幸久

令和6年1月1日に最大震度7の能登半島地震が発生しました。お亡くなりになられた方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

南海トラフ地震は今後30年以内に70～80%の確立で発生すると言われており、本県にとっても、今回の地震は決して他人事ではありません。改めて自助、共助について考えていただき、建物の耐震化、BCPの策定、備蓄の強化等、南海トラフ地震対策をさらに強化をしていただければと考えています。

～「大規模地震時医療活動訓練」についてのご報告～

令和5年9月29日(金)から30日(土)にかけて、四国4県と大分県、宮崎県で行われました、内閣府主催の「大規模地震時医療活動訓練」についてご報告します。

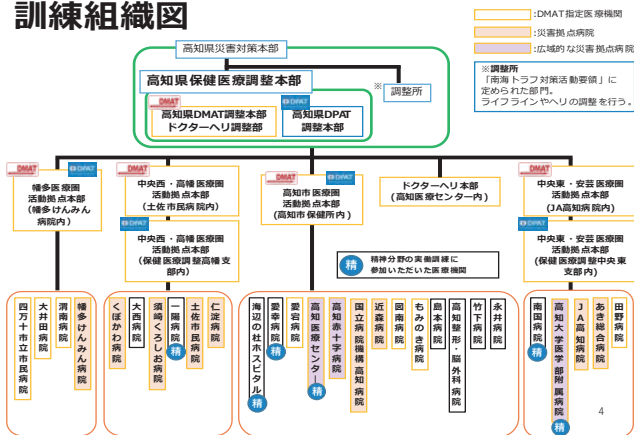
内閣府においては、毎年首都直下型地震や南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を想定して、関係地方公共団体等が連携し、災害派遣医療チーム(DMAT)や災害派遣精神医療チーム(DPAT)の派遣及び参集、現場活動、広域医療搬送等の訓練を各地で実施しています。

今年度は、南海トラフ地震により、四国4県と大分県、宮崎県で甚大な被害が発生したことを想定して訓練が行われました。高知県でこの訓練が行われるのは、平成30年以来5年振りとなります。

高知県の被害想定は、令和5年9月29日11時に土佐湾沖を震源とするM8.0の地震が発生し、高知市・須崎市・宿毛市では長期浸水、道路や通信など一部インフラ機能が使えないという想定で訓練が行われました。

下の図は、今回の訓練での体制図です。

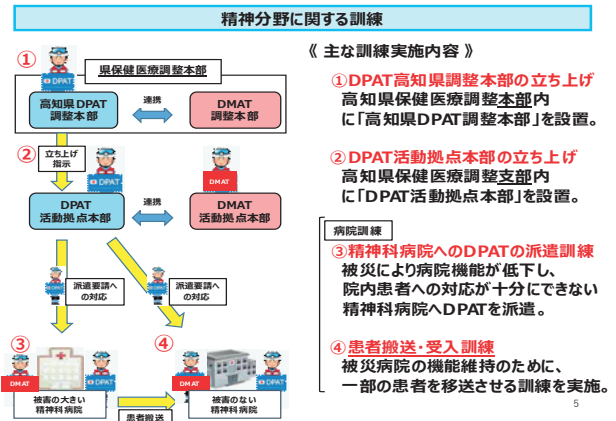
訓練組織図



まず、このような大規模災害が発生すると、高知県災害

対策本部のもとに、県内全域の保健医療活動の総合調整を行う「高知県保健医療調整本部」が設置されます。その「高知県保健医療調整本部」内に、県内の精神科医療に関する情報の収集や分析、DPATの派遣調整等を行うために、当課や精神保健福祉センターの職員が「高知県DPAT調整本部」を設置します。

図の中に記載の病院は、今回の実働訓練に参加頂いた病院です。精神分野の実働訓練には高知大学医学部附属病院、南国病院、高知医療センター、愛幸病院、海辺の杜ホスピタル、一陽病院の計6病院にご参加いただきました。次の図は、精神分野に関する訓練内容です。



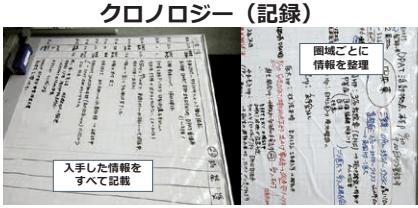
高知県DPAT調整本部からの派遣要請により、DPAT隊が10隊、全国各地から高知県に応援にきました。高知県DPAT調整本部は、被害の大きい精神科病院へこれらDPATを派遣し、病院機能の維持の支援や、被害のない精神科病院への一部患者の搬送、受け入れ支援などの訓練を実施しました。

下記の写真は、訓練当日の保健医療調整本部や高知県DPAT調整本部の様子です。





右の写真は、DPAT調整本部に随時入ってくる多数の情報を整理するためのクロノロジー（記録）の様子です。



今回の訓練後の振り返りとして、「南海トラフ地震規模の地震となると患者搬送の依頼があっても受け入れ病院が見つからない」、「病院から支援要請があっても、県外DPAT隊の支援開始には数日間かかる」、「訓練期間中に支援に入れた病院は4病院しかなく県外DPAT隊の支援は10隊でも足りない」と、非常に厳しい状況を予想する感想が寄せられました。

今回の能登半島地震においても、余震や津波警報が続き、安全が確保できないことや情報の混乱などから、石川県庁にDPAT調整本部が立ち上がったのは、翌日1月2日、県外DPAT2隊が現地支援に入ったのは、発災から3日後の1月4日という状況でした。

より広域で甚大な被害が見込まれる南海トラフ地震では、これを上回る混乱が予想されますし、県外からの支援も多くは望めません。

このため、各医療機関は自院で一定期間持ちこたえること（籠城）を前提として、まずは自助の強化に取り組むことが必要です。

今後当課でも、引き続き県外DPATの受援訓練や高知県DPAT隊の養成訓練などに取り組んでいきます。また、精神科病院事務長会や、関係機関のお力添えをいただきながら、備蓄対策の強化や共助の強化など、南海トラフ地震対策を継続して進めていきたいと考えています。

各医療機関におかれましては、各種研修への積極的なご参加をお願いしますとともに、自院での災害対策について、より一層積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

※図や写真に関して、詳しくはホームページをご覧ください。

令和5年度 高知県精神保健福祉卓球大会の結果について

久しぶり（4年ぶり）の開催となりました卓球大会が令和5年10月20日（金）に高知県立県民体育館で行われました。6施設から約20名の選手が参加し個人戦を行いました。

***** 結果報告 *****

●男子の部

- 優勝：愛幸病院の選手
- 準優勝：海辺の杜ホスピタルの選手
- 第3位：高知ハーモニーホスピタルの選手
- 第4位：海辺の杜ホスピタルの選手

●女子の部

- 優勝：海辺の杜ホスピタルの選手
- 準優勝：土佐病院の選手
- 第3位：高知ハーモニーホスピタルの選手
- 第4位：愛幸病院の選手



選手の皆さん、応援の皆さん、お疲れさまでした。



ご芳志への御礼

本年度の協会活動へのご寄付ありがとうございました。

いずみの病院、いとうクリニック、上町病院、川村病院、高知こころクリニック、さなだクリニック、三宮心療クリニック、だいいちリハビリテーション病院、出原診療所、関南病院、はりまや橋診療所、町田病院、渭南病院、井坂皮膚科、大杉中央病院、竹本病院、田野病院、津田クリニック、天王診療所、イカリ消毒(株)、(有)金高堂書店、(株)高知ガス、高知ビル美装(有)、(株)高知タマモ食品、(株)コーリン商会、三和水産(株)、三誠産業(株)、四国メディカルトリートメントセンター、(株)太陽、(有)フジムラ、ユニ・チャーム(株)四国支店、大塚製薬(株)、武田薬品工業(株)、(株)ツムラ、中澤氏家薬業(株)、Meiji Seikaファルマ(株)、ヤンセンファーマ(株) (敬称略：順不同)

精神科医療の
真のパートナーを
目指して




田辺三菱製薬グループ
吉富薬品株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10
<https://www.yoshitomi.jp/>

なんとかしたい。
だから、挑む。



Sumitomo Pharma